



第119回

中村晃・記録と記憶に残る得点

※2025年9月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

◇ソフトバンク・オリックス
(9月3日・ヤフオクドーム)

◇
首位のソフトバンクを支えるベテランの一人、中村晃が、相手の隙を突いて得点した。

二回に二塁打で出塁して先制のホームを踏んだ中村は、三回の打席でも力を発揮した。追い込まれながらもファウルで粘り、右中間を破る三塁打を放って好機を演出した。

次打者は5番の栗原陵矢。犠飛でも1点が入る場面で期待が高ぶった。しかし、3球目を打ち上げると、打球は外野まで届かず一塁後方のファウルグラウンドへ。日本ハムの一塁手、頓宮裕真が背走し、グラウンドにせり出したフェ

ンス付近へ飛んだ打球を態勢を崩しながらも捕球した。

すると、それを見た中村は三塁ベースへ素早く戻り、本塁に向けてスタート。期待通りの犠牲フライとなり、好走塁で6点目のホームを踏んだ。前日の9月2日にも1点を追う場面で代打で登場し、貴重な同点タイムリーを放った中村は、この日もみせた。

今季は代打もあれば、先発で出場する日もある。チーム事情により多くの役割が求められているが、若手選手がその全てに対応する姿の手本になっている。

優勝を争う今だからこそ「大事なことは(2位の)日本ハムのこととを意識するよりも、自分たちは何ができるかを考えることだ」と

強調する。ベクトルを自分たちに
向けて王座奪還を目指す。